



スポーツボランティア in・駒沢オリンピック公園

6月4日（土）、駒沢オリンピック公園にて「東京都障害者スポーツ大会」が開催されました。本センターは、この大会を主催する東京都障害者スポーツ協会と「スポーツボランティアプログラム」において連携していることもあり、本学からも運営ボランティアとして学生が参加してくれました。

大会について

この日は快晴の空の元、身体障がいや知的障がいのある方々が陸上競技に参加。

競技はトラック競技や投てき競技、跳躍競技等、多岐にわたっており、非常に見ごたえがありました。また、競技者の年齢層も、若い方は中学生・高校生、高齢の方だと60歳を過ぎた方もいらっしゃるようでした。

大会は今年で17回目を迎え、比較的新しい大会である印象を受けるかもしれません。しかし、身体障がい者を対象とした大会と知的障がい者を対象とした大会が統合されてから17回目というだけで、「東京都身体障害者スポーツ大会」は昭和26年から、「東京都知的障害者スポーツ大会」は昭和59年から始まった、伝統のある大会です。

競技者だけでなく、応援の方も多く会場を訪れていました。

アナウンサーサポートのボランティア

首都大生の担当は、会場のアナウンスメントにてアナウンサーの方々をサポートする活動でした。

- (1) 今から始まる競技は何か
- (2) その競技にでる選手達の名前や出身学校
- (3) 一着は誰だったのか

等、アナウンサーの方々を読む原稿を整理し、お渡しするボランティアです。

その活動の中で最も印象的だったのは、大会新記録が出た時です。アナウンスメントは、競技全体を見渡せる最高の場所に設営されていたため、競技が行われる度に、皆で「あれは速かった」「すごく速くまでとんだ」「新記録出たんじゃないか？」といったお話を出来ました。そして記録員の方が「新記録でした！」と記録書を持って来てくださったとき、その素晴らしい記録に喜び、アナウンスを通じて皆でそれを共有して選手を讃えるのは、非常にやりがいを感じられるものでした。

大会の終盤には、本学の学生も実際にアナウンスを行いました。緊張していたようですが、きはきとアナウンスしていて、非常に良い経験となったと思います。

ボランティアを終えて

私は当初、このボランティアに参加するまでは、障がいのある方々が参加するスポーツ大会のイメージとして、勝ち負けよりも和気あいあいと楽しくスポーツなさっている姿を想像しました。しかし多くの競技者から、自分の持つ障がいをものともせず、「自己の限界を超えていこう」「他の競技者に負けまい」という力強さを感じ、彼らに対して持っていた偏った見方を改める機会となりました。

また、大会の中では、非常に多くの大会新記録が生まれました。これについてアナウンサーの方にお聞きしたところ、「大会が継続し、競技者が増えることによって、後進に指導する人も増えていっている。結果、競技者としてのレベルが上がっていている」という事を教えてくださいました。

こうして次へ次へと受け継がれていったことが、記録という目に見える結果として表れてきたのだ、と実感することが出来ました。

東京都障害者 スポーツ大会 【ボランティア活動】 報告

June 4 (sat)



【競技】フライングディスクが行われる様子

円形のゴールにディスクを投げ入れ、入った回数を競う「アキュラシー」と、遠投距離を競う「ディスタンス」が行われている様子です。



【競技】トラック競技の様子と観客席

トラック競技の最中は、観客席から特に非常に大きな声援が上がっていました。また、競技者のレベルも非常に高く、女子の100メートルでは、14：40秒程で走りきる選手もいました。

800メートル走では、競技用車いすで参加される方がいらっしゃいました。長い距離を腕の力だけで走り切るため、上半身が非常に鍛え上げられています。